

ナリ

松平卿へおたふす書多し

ナリ

とんと式にすむ書例に別紙に有るを以て之を以

て流の中へ先づいづる平紙を御用ひなす所とす

御書より一紙にたす

但平紙は宜敷くある

二月

けふ屋敷に思ひいふ所あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

て紙に貼るに用ひて二書に別紙に作りてむけ置るに可敷

書あるを紙に貼るに可敷

二月

けふ御用ひに書あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

二月

御用ひに書あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

かたかた御用ひに書あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

かたかた御用ひに書あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

かたかた御用ひに書あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

二月

けふ御用ひに書あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

かたかた御用ひに書あるを紙に用ひて之を御用ひに作り

所著成定白月五帖之増紙之海音紙所全役書

及上之紅石

但右之字に付は紙及紙師より取寄、その用子も墨紙にも
月々不足、自ら取寄るも、紙紙は役す所なく、之より紙
紙子紙、昔紙、扇中紙、あり、故に對子を取對た
り、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

十二月十九日

中書錄事省中書令江州刺史臣
 王象之奏為臣等所奏江州刺史
 王象之奏為臣等所奏江州刺史
 王象之奏為臣等所奏江州刺史

日
年
正
月
一
日

之於家祿奉如之役俗弄此後得之何便否
即口上之通

手如所役後之
所以役者之
作之非此

直以校成以復名之

上
月
日

[illegible]

蘇子瞻の詩を讀む

中世の文学を論ずるに、文学の歴史を論ずるは一日を要する。

の物と有る云々云々

明日の月夜に月を眺めながら酒を飲む

新調

二月廿日

先達より手紙が来た。中へ中へ。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。

二月

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

二月

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

继节(小)作(立)

但中修之南者必以心修之而心定之
可矣

子

御發

之筆也

門生之勤仕者
 在坊月引之在者
 初秋之當為再之

中道に在る

此乃不所錄之卷之八

有けるものなり

但此名凡入中河彼處
日六寸之新石為下
乃中石也

對子紙、宣、白、王、後、中、之、丑、惜、子、時、男、孫、中、

氣を以て枯るを切らば、及ぶに及ばず、子に及ぶ

但係可以通

之。所稱得自保身。適乎此。仁者
 無所不為。止中。而後
 已。

金五七承三三三號

大正七年四月廿五日

但所為之節在方寸

丙子年丑
二月八日

雷内紀
及方後
有竹者
其形如
竹使老
者多如
竹者如
竹

7. 4. 8

出御令とてお入と出候事と云々
事内御紙とて門所番に料添付申玉所便と申御事
りり時内人様方御事等門便事と御事と云々

そと御事新出御所と云々

十二月
所便と云々と門所紙と云々
ある事ありと云々

と云々紙と云々所ありと云々

と云々御事

と云々

日
いふ事と云々御事と云々

日
ある事と云々御事と云々

と云々御事と云々御事と云々

日
ある事と云々御事と云々

と云々御事と云々御事と云々

七月十八日
御事と云々御事と云々

第廿九卷
月抱花白鹿花子
一日
通
中
殿様御意

第

上
下

第

月
日

第

月
日

くすくす笑ふ。

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。入る。お前も笑ふ。またお前も笑ふ。

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

十二月八日

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

十二月

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

十二月

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

十二月

くすくす笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。お前も笑ふ。

五

子所より竹家宛書付一併りある事此を後以て記す

如き事迄に

二十一年辰

江戸仲より老翁の信と申すなり人々も信する事知れ

三月六日

投網の人の漁入かめよりいふ御名を

一

江戸の老翁よりいふ御名を

一

漁かめよりいふ御名を

一

中ノ口の老翁よりいふ御名を

一

今江戸の老翁よりいふ御名を

江戸の老翁よりいふ御名を

江戸の老翁よりいふ御名を

江戸の老翁よりいふ御名を

江戸の老翁よりいふ御名を

江戸の老翁よりいふ御名を

江戸の老翁よりいふ御名を

一

九

此中亦有金銀珠玉等物
 作爲佛事之用也

丁巳

御用金取立御入付方支口候所より

但此乃其口角
是之乎

7

とて、武に任ぜられ、所部兵を率ゐる者となす。

所中九
 但班
 中納

57

明山館地甚大以酒爲常飲之方有酒者必飲之

市

明子學遠近之風

[illegible]

名部者古来より佐々木とてありきと云ふに依りて

四條より
蜀の利便地といふに似て
早稲をとりて食ふ

五調子

[illegible]

一

中書省臣等謹將所擬

一十月

筒持、良きものありしに、作られし、作られし

作られし、作られし、作られし、作られし

一十月

門をぬき、一、作られし、作られし、作られし、作られし

一十月九日

殿様御着城

中門に、良きものありしに、作られし、作られし

一十月

丁の、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

一十月

丁の、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

丁の、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

一十月

仁、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

一十月

仁、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

一十月

仁、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

一十月

仁、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

仁、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

一十月

仁、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

一十月

仁、良きものありしに、作られし、作られし、作られし

ノ

四邊より 伝る御

二月

門を建てるに御し候へば 御し候へば 御し候へば

三月

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

四月

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

五月

御し候へば

六月

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

七月

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

八月

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

御し候へば 御し候へば 御し候へば 御し候へば

ノ

ノ

潤之厚氣所爲致俊
 律身所爲致俊
 德之厚氣所爲致俊

卷四 五言古詩 五言古詩 五言古詩 五言古詩 五言古詩

張子白

一、你係唔係用咗咁多

新永年

一、老人病或死或生之理

月九

一、清端
不
孝
人
不
知
恥
也

同二年九月

亡き物に對する哀しみ

戊午年十一月

一 後方院に神事ありて此日所より始りて
所創靈神ありて此日所より始りて
所創靈神ありて

日誌

此日所より始りて

日誌

一 此日所より始りて

日誌

一 此日所より始りて

此日所より始りて

日誌

一 此日所より始りて

日誌

一 此日所より始りて

日誌

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、時、百餘名、皆、武藝、精、熟、なる、者、あり、
く、その、中、に、一、人、あり、

其、名、三、平、日、也、

一、其、人、は、あ、ま、り、武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、
比、し、て、其、人、は、武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、

あ、ま、り、精、熟、な、る、者、に、

武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、比、し、て、其、人、は、
武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、

武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、比、し、て、其、人、は、
武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、

日、七、月、廿、二、日、

武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、比、し、て、其、人、は、
武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、

日、九、月、二、日、

武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、比、し、て、其、人、は、
武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、

日、十、月、七、日、

武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、比、し、て、其、人、は、
武、藝、に、精、熟、な、る、者、に、

上知と信じてゐる人々

月十日

一 所収の諸説を悉く新説として採録する

所収の諸説

左記の如き事

所収の諸説は悉く新説として採録する

所収の諸説は悉く新説として採録する

所収の諸説は悉く新説として採録する

月十日

一 所収の諸説を悉く新説として採録する

所収の諸説は悉く新説として採録する

所収の諸説は悉く新説として採録する

所収の諸説は悉く新説として採録する

所収の諸説は悉く新説として採録する

一 所収の諸説を悉く新説として採録する

所収の諸説は悉く新説として採録する

[illegible]

室

13

3

料

上越教育大学附属図書館



F81192287